

1 辻 人志 議員（新政会） 【一問一答】

- (1) 北陸電力福井火力発電所三国1号機の廃止について
- ・廃止に至る経緯について電力会社からどのような説明を受けているのか。
 - ・廃止がもたらす地元や市への影響をどのように考えているか。
 - ・廃止後の跡地利用については電力会社と協議しながら様々な可能性を模索すべきと考えるが市の見解は。
- (2) 使われなくなった学校プールの利活用または解体とその跡地利用について
- ・市内小学校におけるプールの使用状況は。
 - ・使われなくなったプールの利活用または解体とその跡地利用についてどのように考えているのか。
- (3) 九頭竜川以西の鳥獣害防止対策について
- ・九頭竜川以西の鳥獣害について現状をどのように認識しているか。
 - ・現在行っている被害防止対策の取組について伺うとともに、今後の方策を問う。

2 岡部 恭典 議員（拓心会） 【一括】

- (1) 祖父母力を地域力へ＝高齢者が輝く坂井市のまちづくり
- ・市として、「祖父母力」の定義と高齢者の地域貢献力をどのように捉えているのか、市長の認識を伺う。
 - ・市における高齢者の現状と地域活動の実態把握について、高齢者の社会参加率、地域活動の参加状況、健康寿命などのデータをどのように把握しているのか伺う。
 - ・祖父母世代の力を生かした地域づくりの方向性について、子どもの見守り、孫育て（親世代の負担軽減）、地域安全、防災、スポーツ・文化活動などへの活用可能性について見解を伺う。
 - ・高齢者の生きがいづくりと地域力向上を両立させる施策について、高齢者が地域で活躍することは、健康寿命の延伸、介護予防、孤立防止にもつながる。これまで行ってきたいきいきサロンなど既存施策の評価と課題、今後の新たな取組の可能性を伺う。
 - ・若者政策と祖父母政策のバランスについて、若者支援に加え、人口の約3分の1を占める祖父母世代を「坂井市の政策の柱」として位置づける考えはあるのか伺う。

3 伊藤 宏実 議員（市民クラブさかい） 【一問一答】

- (1) 部活動の移動について
- ・中学生の部活動や小学生のスポーツ少年団の校外や遠方への移動はどのような実態にあるのか。
 - ・磐越道で事故があり、その後スポーツ庁からは安全確保に向けた通知が発せられている。現在、県や市町村教育委員会、各学校などで、安全な移動となるように検討が行われていると思うが、本市の検討状況について報告願いたい。
 - ・移動については、安全第一でなければならない。しかし、燃料費高騰等によりバス

委託費が増加しており、保護者の負担も大きくなっていく。子供たちがスポーツや文化活動を通じて成長するためには行政としての支援が欠かせないと思うが、市として部活動やスポーツ少年団の活動に対する支援はどのようになっているのか。

4 上内 晴幸 議員（新政会） 【一括】

(1) 高齢化に伴う地域団体の後継者不足について

- ・地域団体の後継者不足に対する市の危機感と現状認識を伺う。
- ・「集落カルテ事業」の活用と今後の地域支援について市の見解を伺う。
- ・デジタル化の壁を解消するため、高齢者向けスマホ教室を自治会単位で開催するなどの支援を図ってはどうか。
- ・「まちづくりカレッジ」の修了生が地域にどのように関わっているのかを伺う。
- ・「消防団・防犯隊など、地域防災・安全組織のなり手不足」について、現状の認識と対策を伺う。
- ・自治会やまち協などの地域組織の深刻な課題を解消するため、市が人材を仲介する、または紹介する「地域活動の横断型マッチング」の仕組みを構築してはどうか。

(2) 豊原寺跡周辺の山城遺構発見に伴う調査・保護について

- ・このたび報道された山城遺構について、市教育委員会として現在把握されている事実関係と、その歴史的意義についての見解を伺う。
- ・これ以上の損壊や風化を防ぐため、市としてどのような「史跡保護」の初動対応をとるつもりか、また県とどのように連携していく考えがあるのか伺う。
- ・まちづくり協議会や地域住民は、これまで豊原史跡の保護啓発活動を行ってきたが、市として今後保護啓発など含め、どのように地域との連携を行っていくのか伺う。

5 高嶋 信博 議員（翔政会） 【一括】

(1) 丸岡城天守保存修理工事等について

- ・今回の丸岡城天守保存修理工事では、今しか見ることができない工事用幕に覆われた丸岡城や天守保存修理工事の具体的な方法などを見学できる現場見学会、工事内容のレクチャー講演会などを通して、市民や観光客にアピールしてほしい。丸岡城に興味のあるお城ファンは具体的な説明を期待しており、市民にも関心を持ってもらいたい。そのために、講演会、説明会や現地見学会を実施してほしいが、その具体的な実施方法とスケジュール及び市民や観光客へのPR方法について伺う。
- ・丸岡城天守保存修理工事期間は、防犯・防災のための立ち入り禁止区域を設けているが、工事終了後においても防犯・防災のために夜間の立ち入り禁止区域を常設できるようにすべきと考える。国の重要文化財である丸岡城天守の防犯・防災対策について伺う。
- ・一筆啓上茶屋の跡地については、今後の発掘調査方針ないしは利用方法を市民に対してどのように説明、周知していくのか。また、一筆啓上茶屋前の駐車場は、今後どのように利用していくのか、加えてバス停はそのまま今の場所に置いておくのか。もし、そのままバス停を利用するのであれば、トイレを含めた待合スペースの整備が必要と考えるが、方針を伺う。

6 三宅 小百合 議員（チャレンジさかい） 【一問一答】

(1) 骨髄ドナー支援の充実について

- ・骨髄バンク事業及びドナー支援について市はどのように認識しているか。
- ・市内における骨髄提供の実績や相談状況を把握しているか。
- ・ドナーが抱える経済的・時間的負担をどのように認識しているか。
- ・県制度に上乘せする形で、市独自の支援制度を創設する考えはないか。
- ・骨髄バンク登録者を増やすための啓発活動に取り組む考えはあるか。

(2) 工業団地における下水道未整備区域の現状と今後の整備方針について

- ・市内の工業団地のうち、公共下水道が整備されていない区域はどこか。現在、各事業者はどのような排水処理を行っているのか。
- ・下水道未整備により、企業誘致や設備投資に支障が生じていないか。
- ・企業から整備要望は寄せられているか。
- ・排水管理や水質保全について、市はどのように把握・指導しているのか。
- ・公共下水道整備の可能性はあるのか。

7 永井 純一 議員（公明党） 【一括】

(1) 坂井市の物価高対策について

- ・坂井市民、事業者の現状を速やかに把握する必要があると思うが、市の考えを伺う。また、現状把握の方法はどのようにするのか伺う。
- ・厳しい状況の低所得者や子育て世帯への速やかな対策が必要と思うが、市の考えを伺う。
- ・事業者の事業継続や倒産防止などの対応として、速やかな相談体制の確立、資金繰り支援など市独自の取組が必要と考えるが。
- ・市民、事業者への物価高対策を図ることと、現在、実施している4ヶ月間の水道料減免の延長を求めたいが、市の考えを伺う。

(2) 行政改革について

- ・支所機能の見直しを図るべきときと思うが、現在の考えを伺う。また、縮小を考えているのであれば、その内容を伺う。
- ・支所機能の縮小が図られた場合、本庁における人材確保が図られ、本庁機能の充実が図られる。そして、支所の空いたスペースに地域包括支援センターなどを入れることで、市との連携が図られ、さらなる相談体制の充実、市民サービス向上に資すると考えるが。

(3) 坂井市の学校教育について

- ・坂井市の子どもは、みんなが人材、有為な人材にとの思いで、坂井市独自というのか、特色を出した学校教育の方針について考えを伺う。
- ・先生自身が最大の教育環境の下、子どもと向き合う時間確保が大事である。慕われる先生、目標とされる先生であるために、さらなる教師の負担軽減の取組について伺う。

8 大谷 正道 議員（新政会） 【一問一答】

(1) 坂井市の危機管理体制（出水期対応及び国民保護施策）について

- ・出水期を迎え、水害発生に関する市の危険見積りや過去の災害教訓を踏まえた対策について伺う。
- ・気象庁が新たに運用する防災気象情報の活用と市民への周知・普及施策について伺う。
- ・坂井市国民保護計画の策定及び運用並びに国民保護施策における市の課題について伺う。
- ・弾道ミサイルや航空機等による経空脅威から市民を守るための警報伝達と要配慮者や教育施設・保育施設等における安全確保の方策について伺う。
- ・国民保護訓練の実施状況と今後の実施方針について伺う。

9 後藤 寿和 議員（拓心会） 【一問一答】

(1) 本市ふるさと納税を次のフェーズに向けて

- ・ふるさと納税額が前年度比13.3%減となった要因をどのように分析しているのか。また、市として現在のふるさと納税制度の課題をどのように認識しているのか。
- ・本市へのふるさと納税によるリピート率を把握しているのか。また寄附者を坂井市のファンとして継続的な関係人口へ発展させる戦略をどのように考えているのか。
- ・寄附市民参画事業については市民からの提案を増やすため、今後どのような周知や制度改善を考えているのか。
- ・坂井市地場産品創出支援事業について（坂井市版ふるさと納税3.0）事業者の売上向上や販路拡大、新商品開発などにどのような効果を期待しているのか。
- ・市民の夢と事業者の夢を応援する両制度をさらに連携・発展させることで、市民活動の活性化、地域産業の創出、関係人口の拡大、さらにはふるさと納税の活性化につなげていくためには、次のフェーズ（段階）に移る時期と考えますが、市の見解は。

10 川畑 孝治 議員（国民民主党） 【一問一答】

(1) 生活応援事業について

- ・事業の概要として、電子決済事業者と連携しプレミアム商品券を発行し、となっており、この事業でははぴコインを使っての事業としているが、電子決済事業者が数社ある中、なぜはぴコインとしたのか。
- ・本市はコロナ禍以降Pay Payのポイント還元事業を行ってきた結果、Pay Payでのキャッシュレス決済がある程度浸透してきたキャッシュレス決済の利用促進を考えると、Pay Payでの生活応援事業でもよかったのではないかと。
- ・事業の概要として、地域経済の活性化を図る、としているが、はぴコインの使える店舗数は、スマートフォンで使える店舗が350店舗、QRコード付き紙商品券で使える店舗は120店舗。Pay Payの使える店舗数は1,200店舗だが、地域経済の活性化を図るには、使える店舗数が多い方が活性化につながるのではないかと。
- ・19歳から64歳の人へはプレミアム率100%商品券だが、スマートフォンにア

プリの入っていない人はアプリをインストールする必要があり、アプリを入れても坂井市民であることの証明が必要で、かなり大変な作業と聞く、この点からもなぜはぴコインなのか。

- ・今回19歳から64歳はスマートフォンでの決済、65歳以上は紙商品券での決済と分けたことで事務事業が増え、紙商品券の受け取りには受け取りサインを必要として、非常に時間と費用がかかっているのではないか。19歳以上全ての人にPay Payのポイント付与で、できない人には、紙の商品券と交換することは考えなかったのか。
- ・今回市民1人に5,000円の事業となっているが、市民感覚としては不足感が有る。新聞報道などでは勝山市は19歳から64歳1万円分のデジタル商品券、65歳以上に2万円の現金給付、大野市は市民に1万円分、65歳以上には1万5千円分の商品券、鯖江市も19歳から64歳に1万円分の地域通貨、65歳以上に1万5千円の現金給付と報道があり、市民から不満の声も聞いている。なぜ今回の金額での事業としたのか、また金額を多くしなかったのか。

11 畑野 麻美子 議員（日本共産党議員団） 【一括】

- (1) 敬老会を単なる行事としてではなく、高齢者の孤立を防ぎ、地域のつながりを取り戻す大切な福祉施策として位置づけるべき
 - ・コロナ禍以降、市内の敬老会は各地区でどのような形で実施されているのか。式典や交流会を行っている地区、記念品や配布のみの地区など、実施状況を市として把握しているか。
 - ・各まちづくり協議会に任されていることで、地域により敬老会の内容や参加機会に差が出ていると感じる。市として、この地域差をどのように受け止めているのか。
 - ・高齢者からは、以前のように集まれる敬老会を望む声がある。市として、記念品配布だけでなく、地域の高齢者が集い、交流できる敬老会の開催を後押しする考えはないか。
 - ・まちづくり協議会任せにするだけでなく、市として一定の方針や支援の在り方を示し、その地域に住んでいても高齢者が敬意を持って祝福され、交流できる機会を設けることが必要と考えるが、市の考えは。
- (2) 坂井市丸岡町の豊原を市民にもっと知ってもらうため、イベントづくりを求める
 - ・市は、丸岡町豊原を市民に知ってもらうためのイベントや情報発信について、どのように考えているか。
 - ・市民団体や地元住民、まちづくり協議会、観光関係者とも連携しながら、豊原の魅力を再発見するイベントを開催できるよう、市として積極的に取り組むことを求める。
 - ・豊原へ向かう林道の整備についても、今一度点検を含め、特に川沿いにおける柵の設置を求める。
 - ・豊原と丸岡城周辺の寺院や町名との関係性、さらに豊原寺と長崎称念寺との関係性を深め、まちの魅力を引き立てること。

1 2 佐藤 昌康 議員（拓心会） 【一括】

(1) 「教育現場における生成A I の利活用」について

- ・坂井市における教育現場での生成A I の利活用の現状と認識について伺う。
- ・生成A I の活用に伴う「主体性の低下」や「情報モラル」への不安、及び課題の解消についてどのように考えているか。
- ・生成A I を活用した教職員の負担軽減と働き方改革についてどのように考えているか。
- ・「個別最適な学び」における不登校児童・生徒への支援や、英語教育をはじめとする各教科への利活用についてどのように考えているか。
- ・「A I 教育の先進都市」として歩みを進めるための今後の方向性と、ハード面の整備についてどのように計画しているか。

1 3 高倉 友愛 議員（拓心会） 【一問一答】

(1) 働く世代の心の健康と相談支援について

- ・市が実施したアンケート調査や相談実績等から、働く世代の心の健康についてどのような傾向が見られるのか。また、市としてどのような課題があると分析しているのか伺う。
- ・市の相談窓口にはどのような相談が寄せられているのか。また、働く世代特有の課題についてどのように把握しているのか伺う。
- ・市民の心の健康を支える行政として、市役所職員の心の健康についてどのような現状を把握しているのか。また、メンタルヘルス不調による休職等の状況についてどのような傾向が見られるのか。職員が安心して働き続けられる環境づくりに向け、どのような取組を行っているのか伺う。
- ・近年、社会ではカスタマーハラスメントをはじめとした様々な要因が働く人の心の健康に影響を与えている。市はどのような課題認識を持ち、職員を守るためにどのような取組を進めているのか伺う。
- ・働く世代の心の健康は、人材活躍や地域活力の土台となる重要な課題であると考え。現状や課題を踏まえ、相談支援や心の健康づくりに今後どのように取組を行っていくのか伺う。

1 4 林 豊夏 議員（翔政会） 【一問一答】

(1) 部活動地域展開における地域・保護者の理解と協力について

- ・現在、坂井市が部活動地域展開を進める上で、指導者の確保、活動場所、費用負担、保護者の理解、送迎、地域クラブの運営体制などについて、どのような課題を認識しているのか。
- ・部活動地域展開は、行政や学校だけで進められるものではなく、保護者や地域住民の理解と協力が不可欠であると考え。市として、保護者や地域住民の理解と協力をどのように得ながら、部活動地域展開を進めていくのか。
- ・地域展開を持続可能なものにするためには、指導者として関わる人だけでなく、活動を支える人、見守る人、運営を手伝う人など、様々な形で地域住民が関わる余地

を広げることが重要だと考える。市として、地域クラブ活動において、地域住民や地域団体がどのような役割で関わることを想定しているのか。また、指導者以外の形で、地域住民が地域クラブ活動を支えることについて、どのように考えているのか。

- ・地域クラブ活動を持続可能なものにするためには、競技や活動そのものだけでなく、出欠確認、連絡調整、会費管理、送迎の調整など、活動を支える運営面の負担を軽減することも重要である。市として、保護者、地域住民、地域団体などと課題を共有し、地域クラブ活動の運営支援について協議・検討する場を設ける考えはないか。

(2) 農業者が安心して農業を営める坂井市に向けた持続可能な農業政策について

- ・坂井市において農業は、食料生産だけでなく、地域経済、雇用、農地保全、景観、地域コミュニティを支える重要な基幹産業であると考えられる。
一方で、担い手不足や高齢化、資材高騰、鳥獣害など、農業を取り巻く環境は厳しさを増している。市として、現在の坂井市農業の強みと課題をどのように認識しているのか。
- ・肥料、燃料、農業機械、資材、人件費などの上昇により、農業者の経営負担は大きくなっている。農産物価格が上がっているように見えても、コスト増に追いつかず、農業者の所得確保につながっていない場合もある。市として、市内農業者の経営実態や、資材高騰の影響をどのように把握しているのか。
- ・資材高騰や物価高騰が続く中で、農業者が安心して作付けや設備投資、経営継続の判断を行える環境づくりが必要である。市として、農業者の経営継続を支えるため、既存制度の周知や相談体制に加え、販路支援、地産地消の推進、省力化支援などをどのように整理し、実効性ある支援につなげていくのか。また、坂井市産農産物の価値や、生産にかかるコストへの理解を広げ、地元農業を支える消費行動につなげることも重要ではないか。
- ・鳥獣害は、農作物の被害だけでなく、農業者の営農意欲の低下や耕作放棄にもつながる深刻な課題である。市として、鳥獣害の被害状況をどのように把握しているのか。また、現在の対策の効果を、捕獲数や補助件数だけでなく、被害金額、被害面積、再発状況、営農継続への影響といった成果指標の観点からどのように検証しているのか。
- ・鳥獣害対策は、捕獲、侵入防止柵、地域ぐるみの点検、放任果樹対策、緩衝帯整備などを組み合わせて進める必要がある。被害が発生してから対応するだけでなく、地域ごとの被害状況や再発状況、対策の実施状況を把握し、予防型の対策を進めることが重要ではないか。市として、今後どのように鳥獣害対策を強化していくのか。
- ・坂井市を農業の場として選んでくれる人がいることは、市にとって大きな強みである。一方で、資材高騰や鳥獣害などの課題は、新規就農者や若手農業者にとっても大きな負担となる。新規就農者が就農して終わりではなく、就農後の経営安定や地域とのつながりを含め、地域に定着し、安心して農業を続けられるよう、市として相談体制や伴走支援をどのように整えていくのか。

15 佐藤 岳之 議員（翔政会） 【一問一答】

(1) さかいキッズパークの運営状況と今後の取組について

- ・ さかいキッズパークオープン以降の来場者数について、平日と休日、長期休暇中など、どのような傾向になっているのか。また、利用者アンケートや現場での聞き取り等を通じて把握している主な声として、満足している点、改善を求める点、想定していなかった使われ方など、どのような傾向があるのか伺う。
- ・ 混雑時の入場制限や、年齢別のエリア分け、スタッフの配置など、安全確保とトラブル防止のために現在どのような運営ルールを設けているのか伺う。
- ・ 近年の猛暑や熱中症リスクを踏まえると、さかいキッズパークにおける、室内の温度や湿度、換気といった温熱環境について注視する必要がある。どのような基準や目安を持ち運営しているのか伺う。
- ・ さかいキッズパークは、子供が遊ぶだけでなく、保護者同士の交流やイベントの充実も求められていると考える。施設の今後の方向性を伺う。